肉体は死んでも，
自分は死ない！

金沢区　松瀬（まつせ）　学（がく）
（雅号は観翁（かんおう））

男はどうして？その女に惹かれてしまう？男と女のとりかえばや物語を例としここでは少し粋に考える。男が女に惹かれる時それは自分の中の反男性性女性性が相手の女の中の反女性性男性性を好いているのだ。男と女のとりかえばや！の図は文末を参照の事目の前の美しい女性に惹かれるのは，実は自分の中の女性性である。この時その美しい女性を自分の中の男性性と見る事が重要だ。つまり，自分の中の女性性が目の前の美しい女性＝自分の中の男性性を好いている。そして今まで女性性だと思っていた，嫉妬心，消極性，女々しさ妬み，と言うのは古い男性性で，男性性だと思っていた，競争心，野心，性欲，出世欲，と言うのは古い女性性だった。２度のとりかえばやとは？自分の中の反対の異性の発見と，目の前の異性を反対の性と見る事だ（交替化の奥義）決局は，宝塚的な男前っぽい女の方が，美しい女となって，細やかで繊細な男の方が，立派な男となる。ヌースで言うならばψ９（思形）とψ10（感性）の調整質の処で，極めて重要だ。

ψ９→思形，象徴界，言語，概念，客観
男性性，審神者，こころ，左脳的，ある空間
Ω９→アーリマン（物質悪）アトランティス
ψ10→感性，想像界，知覚，イメージ，主観
女性性，巫女，精神，右脳的，いる空間
Ω10→ルシファー（精神悪）レムリア

ψ９ψ10を統合したψ11が真我。顕在化とは内なる他者側へと回る（バックに回る）事

ψ11（真我）＝ψ＊５（他己）＝ψ６（自我）

きっぷの良い女，粋な女と言うのは単に明るい女性ではなくて，内なる男性性と女性性が交錯し調和した姿だからこそ人を強く惹きつける。彼女は古い意味での男性性女性性の対立を超えていて交替化の奥義を体現する存在と言える。男の内なる女性性が，女の内なる男性性に惹かれる。男は女の中の男性性を自分の男性性だと見直す。女の内なる男性性が男の内なる女性性を映し出す。女は男の中の女性性を自分の女性性として認める。惹かれるのは自他が交差反転しているから。これは**性が交替化して成立する反転の美**である。男が粋な女に惹かれてしまうのは彼女が単なる女でなく自分の内なる女性性が求めている，もう一つの男性性を宿しているからだ。彼女を通して自分の性の二重性が交差反転して見える。それが，交替化の奥義であり美しい女性とは何か？の答えである。**粋な女性＝交替化された美の鏡像**だから惹かれるのだ。

今年2025年は位置の転換開始。２度の交替化は大嘗祭の悠紀殿と主基殿，七夕伝説のベガ（織姫）とアルタイル（彦星）の逢瀬としても知られている。私も27年ぶりに名前を本名の学に戻し２度の交替化をした。今年は後半戦の始まりだ。**稀人来たる。救済は他者からやって来る＝啐啄同機**。持続空間の向こうから満面の笑みを浮かべて来る。やがて自分自身と一つに重なる。内なる自己であった事が知らされる。ヌース提唱者の半田広宣氏は語る。もともと！人間が見ている空間と言うのは反転してるんです。だから，自然に見てる空間と言うのが反転した空間なんですよ。あるがままの世界を見ていない。対象化と言うバイアスを入れ見てる。そこを戻そうよ！と言っているだけ。見たままではなく，**他者視点で空間を見ちゃっている。それもうやめよう！**って，ヌースは言ってる。時おり，笑って語るが，顔は真剣そのものだ。もしかしたら？半田氏の表情やジェスチャーにも語っている事が顕れているのかも知れない。

私には，与謝蕪村の俳句がふと浮かんで来た。
春の海　ひねもすのたり　のたりかな　♬
春の海を生命の循環と再生の象徴と解釈した。

２つの空間を比較している時，もうそこから出てしまっている。他者視点，幅の世界にいる自分に気づく。これでは先日見た川瀬統心氏のフッサール哲学の二の舞だ！主観と客観を分けると外部の視点が生まれてしまう。般若心経もノンデュアリティも**無我であり，生成がない！**その先に何も無いのではなく，前に全ての答えがある。私達の意識の本質は空間の方にある。空間が主体（地）でモノが対象（図）なのだ。背景空間によってモノは存在させられている。私達は空間の方が見えていない。空間は単なる型どりではない！空間の方がモノを見ている。私たちが見ている図（モノ）は実は地（空間）によって立ち上がらされている。本当の自己は空間＝地そのものなのである。ここには従来の図＝主体，地＝背景という理解の反転がある。**目の前の空間（景色）＝私**である。私が見てるのは，**自分の心の世界**である。
鏡にも２つある！沖津鏡と辺津鏡（十種神宝）
沖津鏡（他者の視野空間）→内面の鏡
Doあるべき，当為，対自，局所，刹那
自分の内面が外の世界に投影される。
隠しているもの（シャドウ）や嫌いな部分が
自分の前の鏡（環境や人）へと映し出される。
そして，それを見て，自分の内側を確かめる。
これは自我によるマッチポンプである。
辺津鏡（自己の視野空間）→外面の鏡
Beあるがまま，無為，即自，非局所，血脈
意識の本質は鏡であると言う事。
自分自身（私達）が鏡であった。
我々が対象を知覚するのは，我々の内ではなく対象の内においてである（ベルクソン）**知覚は必ずその現場と同じ場所で発生する！**タコ焼きの味を感じているのは，舌や脳や神経ではなくタコ焼き自身が感じ取っている。実像と鏡像が私と言う鏡を通し反射し，そのまんま目の前に顕れている。ここがそのまま精神世界なのだ。

この世界は私達には３次元空間と１次元時間に見えている。しかし実際は，貴方と私の意識で創り出している。モノ自体の中で，自他一体となっている**→佐藤の公式（３＋１＝２×２）**
３次元空間＋１次元時間→４次元時空
自己と他者の精神の等化→４次元空間
すなわち，モノ自体とは双対性の領域である。物質（付帯質）とは何か？物質とは自己と他者の精神が宇宙倫理において編みあげられたものであり，精神が干渉して相殺された処に生じる無の領域。人間が見ている物質世界の表象だ。物質を通して自己と他者は出逢うのだ。目の前の物質は，貴方と私が出逢った証であり，その結び目こそ，**プタハの結び目**である。

物質とは記憶であり存在とは時間性である。私達は共通の記憶により，同じ様に感じ取る。過去の事を思い出してる時，実際過去にいる。私達は目の前で一つになる事が出来る（共感）主語が存在せぬ日本語の精神や中動態として。**脳に記憶は保存できない！**そこに残るのは情報としての記録にすぎず，感覚質（クオリア）や生きた体験（血と汗と涙の結晶の瞬間）は書き込めない。記録は抽象化された幅であり味わいは薄いが，記憶は凝縮された奥行きであり深みがある。わびさびの美，達人の技はこの深みに根ざしている。同じ曲を奏でても，その心情は毎回ちがう！ゆえに，**一期一会のヒビキ**が生まれそこには変わらぬ霊性が息づいている。俯瞰ではなく現場の美学，解釈の美学ではなく，**直観体験の美学**にこそ価値があるのだと私は思う。**記憶＝持続（奥行き）**であり，私達は生まれてからこれまで，肉体が死んだ後も、**ずっと変わらぬ場所が目の前に存在している。そこは一度も現在になった事のない過去。**人生の走馬灯の様な風景が目の前で重なり合う。前で繋がって奥行きの世界に参ろう！奥行きは円環の世界！始まり＝終わりの**永遠回帰の世界**。私の意識は宇宙の始まりと終わりが今ここで出逢った処で立ち上がっているのだ**→ケイブユニバース**の事ここに立つ我ら，誰ひとりとして例外はない。

肉体の死を越えても，霊はなお歩みを続ける。ならば，怯むことなく，いま，この瞬間から。自らが，光そのものであったと気づくために。

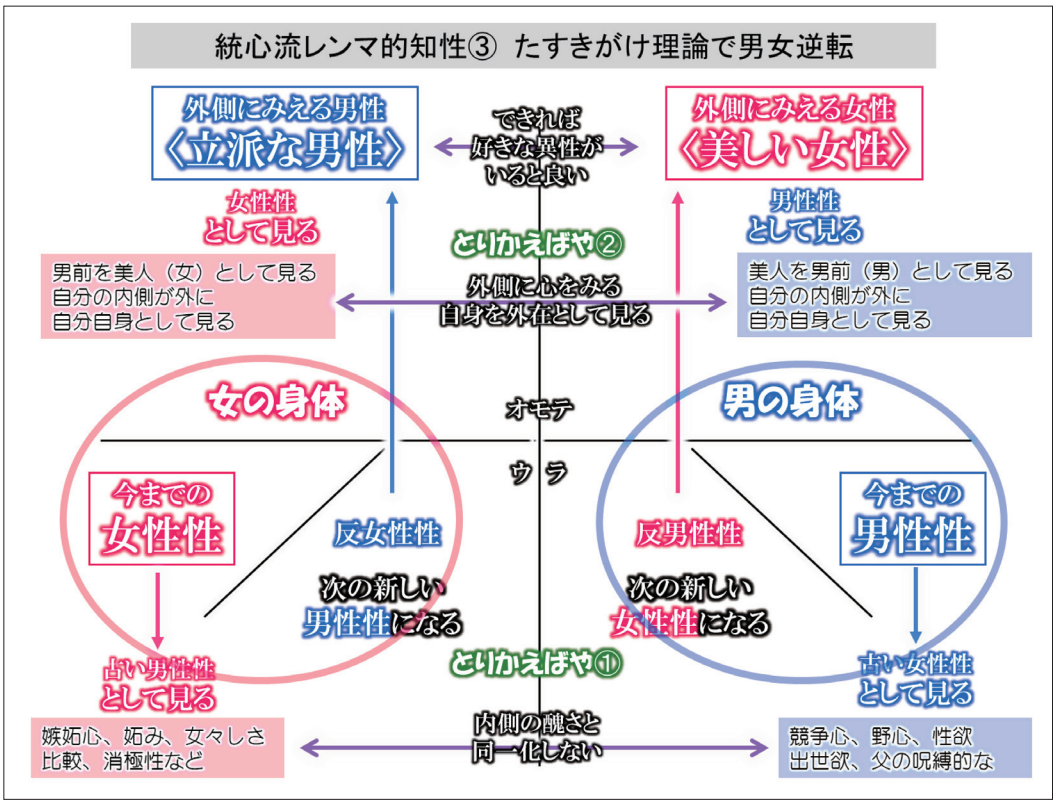
後記

今月で65歳。スピリチュアル歴50周年記念号だ。ヌースのお蔭で、二つの鏡が扱える様になった。全ての答えは目の前に存在していた。前で同じ音、カタチ、ヒビキを共有（共感）し彼岸へ帰ろうではないか！**アマウツシとは他者視点化する幅（実軸）で、カムウツシとは自己視点へ戻る奥行き（虚軸）である。**彼岸へ行くのではなく、彼岸から此岸へと来たのである。これは生前、父が使っていた湯呑です。などと言うが、何故、死前ではないのか？私達は此岸を実在だと思い込んでいる。生前とは此岸に来る前、彼岸にいた時が真の生ではなかろうか？生前とは彼岸での存在状態。現生は彼岸の自己が此岸にアマウツシされた状態であり、死とはカムウツシによる帰還（アマカエシ）であると直観すると自然と腑に落ちる。**生がもたらす死か？生をもたらす死か？**問い続けて来た。生をもたらす死とは持続＝奥行き。肉体は死んでも自分は死なない！千の風ではないが私はそこにはいない。でも私はあなたと共にいる。そして私はここにいます**→インマヌエルとヒネニ**の事個体の中に普遍が降りて来る。**一隅を照らす！**これ即ち国宝なり。天台宗最澄の言葉である。

参考文献

関西ヌーソロジー研究会（主宰：川瀬統心）
大阪教室のDVD（バックナンバー多数）
スライド図の出典は
位置の融和とレンマ的知性（2022年１月）

YouTube動画 noosclip（ヌース提唱者：半田広宣）
カタカムナの本質は○○！楢崎皐月の遺志を継ぐ
(2021年３月)
反転する感覚を伝えます。誰でもできるはずです
(2025年２月)



男と女のとりかえばや